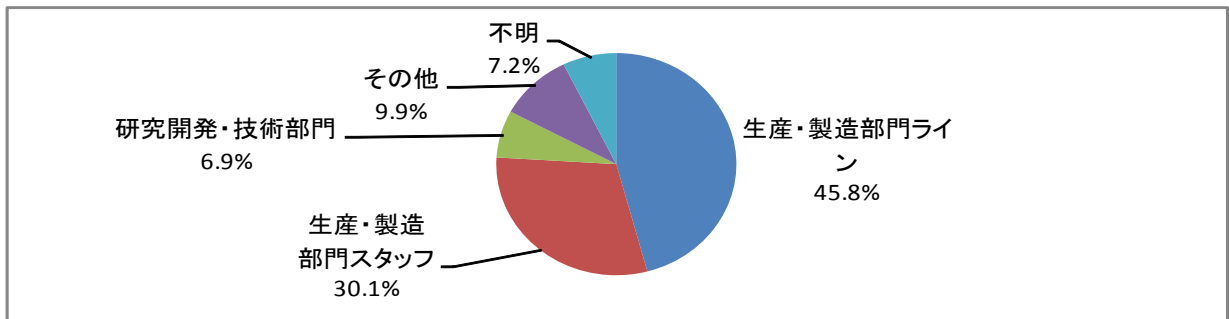


## 【2】職種別、階層別の特徴

生産マイスター検定は、主に 1,040 万人の製造業を中心とした「ものづくり中核人材の育成」を目的として開発された検定です。そのため、第 12 回も例年どおり受検者の 45.8%が生産・製造部門ラインとなっています。また、生産・製造部門スタッフと研究開発・技術部門の合計は全体の 37.0%を占めています。

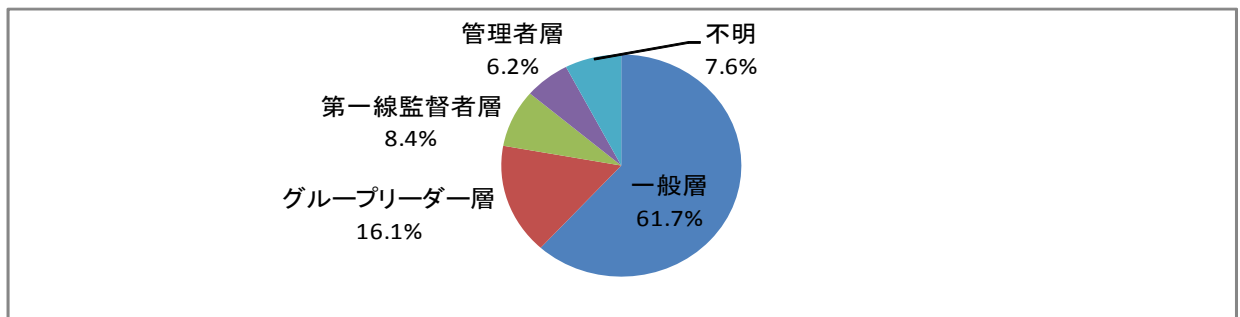
一方、受検者の階層を見ると、「一般層」が受検者全体の 61.7%割を占め、その多くが 3 級、またはベーシック級を受検しています。「グループリーダー層」は全体の 16.1%で 2 級、または 3 級の受検が多く、「第一線監督者層」と「管理者層」は合わせて全体の 14.6%で主に 1 級、または 2 級の受検が多くなっています。

### ●職種別の内訳



職種	1級	2級	3級	ベーシック級	計	割合
生産・製造部門ライン	63	241	380	411	1,095	45.8%
生産・製造部門スタッフ	93	166	268	193	720	30.1%
研究開発・技術部門	39	41	36	48	164	6.9%
その他	27	47	85	78	237	9.9%
不明	19	31	64	59	173	7.2%
計	241	526	833	789	2,389	100.0%

### ●階層別の内訳



階層	1級	2級	3級	ベーシック級	計	割合
一般層	82	233	503	657	1,475	61.7%
グループリーダー層	28	104	207	46	385	16.1%
第一線監督者層	55	113	23	9	200	8.4%
管理者層	57	45	32	13	147	6.2%
不明	19	31	68	64	182	7.6%
計	241	526	833	789	2,389	100.0%